

静岡県立大学 食品栄養科学部 環境生命科学科 物性化学研究室 (牧野 正和 教授, 徳村 雅弘 助教)

より良い生活環境を目指して

静岡県立大学 食品栄養科学部の物性化学研究室には教員2名, 博士前期課程学生3名, 学部学生6名の計11名が在籍しています(令和元年11月 現在)。

私たち物性化学研究室ではそれぞれのテーマについての実験, 文献調査や学会発表準備に真摯に取り組む一方, 誕生日会や新年会, 忘年会に加え研究室旅行などの行事も開催し, 和気藹々と過ごし, メリハリをつけて日々生活しています。

当研究室では, 「身近な環境に潜む化学物質のリスク評価」をテーマに, 農薬や生活由来物質などの問題に加え, 地域特有の環境問題もターゲットとし, 環境分析, 構造決定, 物性評価を大きな柱として様々な研究を行っています。また, リスクが懸念される問題に対しては, その対策技術の開発も行います。

現在のメンバーの研究テーマの例としては, 室内環境においてヒトに対する安全性が懸念されている有機リン系殺虫剤や難燃剤などの化学物質の毒性試験や, 経皮曝露に伴うリスクの評価があります。

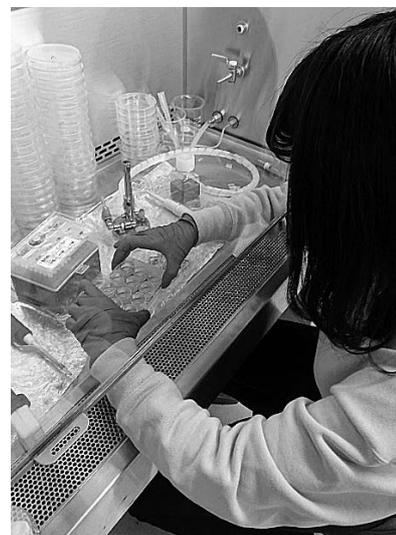
一生のうち, 人々が室内で過ごす時間は少なくありません。そのため, 大気・水環境などの室外の環境を良くしても, 室内環境も良くしなければ, リスクを回避することはできません。例えば, 生活空間にある製品などに添加されている化学物質のなかには, ヒトへの健康影響が懸念されているものがあります。しかし, そのリスク評価に関する情報や, 簡易にリスクを評価できるデバイスが十分にはありません。そのため, 私たちは, 具体的なテーマとして「防蟻剤として使用されていた有機リン系殺虫剤の毒性評価」や「経皮曝露量測定デバイスを用いた曝露量推定に及ぼす影響要因評価」などのテーマに取り組んでいます。

今後も, 人々の生活環境や健康をより良くするための研究を行い, 科学的に正確な情報や, 環境改善に有効な技術を提供できるよう, 研究室のメンバーが一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

(学部4年生 船水 純那 大石 真菜)



卒業生を送る会の様子



研究室での実験風景